

同窓会誌

64



特別企画

母校・教育学部との新しい連携を求めて

—新学部長／新同窓会長 対談—

特集

教育学部ホームカミングデー・シンポジウム

「授業に生かす楽しい新聞活用」

島根大学教育学部同窓会

目次



母校今昔	表紙裏
母校・教育学部との新しい連携を求めて —新学部長／新同窓会長 対談—	(2)

教育学部最前線

「教師力パワーアップセミナー」の取り組み

長谷川 博史 (6)

特集 「授業に生かす楽しい新聞活用」

□教育学部ホームカミングデー (14)

□シンポジウム

- ・コーディネーター・有馬 毅一郎 (15)
- ・パネラー・松浦 和之 (16)
- ・多和田 祥司 (18)
- ・美濃地 裕子 (20)

□シンポジウムのあらまし (22)

第6回島根大学ホームカミングデー (23)

私の研究紹介 (24)

ご退職の先生を送る (26)

同窓のゆかりをたずねる

—教育学部附属中学校（旧愛宕校舎）と桑原文次郎先生— (27)

支部からの声

第1回教育振興奨励賞決定 (36)

専攻だより —研究室はいま— (37)

平成23年度島根大学教育学部卒業研究題目一覧 (61)

平成23年度島根大学大学院教育学研究科修士論文題目一覧 (67)

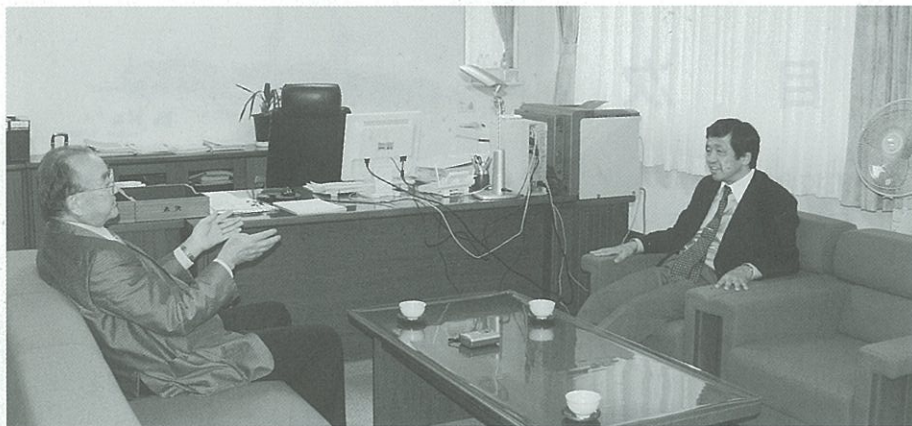
近況報告

本部だより (47) 有志会・同期生会だより (49)

クリックしてね！—島根大学教育学部同窓会ホームページご案内— (13)

事務局より (13) (60) (70) (71) (72) (73) (74)

受贈図書紹介 (46) (69) 表紙に寄せて・編集後記 (75)



島根大学教育学部長室にて（秋重幸邦学部長＝右）

母校・教育学部との

新しい連携を求めて

— 新学部長／新同窓会長 対談 —

今年度、教育学部では新しい学部長、新しい同窓会長が揃って誕生しました。

今、学部も同窓会も新たな動きへの対応が迫られています。学部・学生・先生方の現状をもとに、教育学部と同窓会の連携のあり方をめぐって、秋重幸邦学部長と有馬毅一郎同窓会長に対談を行いました。

◆ 教員養成に特化して

有馬 このたび同窓会長を仰せ付かりました。先生も学部長就任間もないわけですが、まず今の教育学部の様子から伺いたいと思います。

秋重 平成十六年に鳥取大学と統合再編して、本学部は教員養成に特化した唯一の大学として、全国の手本になるよう努力してきました。例えば、学生には履修カルテのような「プロファイルシート」で教師力の向上を促したり、「教師力パワーアップセミナー」を開いて、同窓会の先輩の指導をいただいたりしています。

有馬 「二〇〇〇時間体験」も、実行するのは学生ですが、効果を上げるための先生方の指導は大変でしょう。新しい方針のもとで先生方は忙しくなられたのでは……。



秋重学部長

秋重 先般、「教員養成のあり方」を提言していくための調査研究（文科省委託）に來られた先生方が、びつくりされていたんですが、一番手のかかる指導を非常にうまくやっている。県教委との交流人事で現職教員を学部教員に迎えて「教育支援センター」を作り、組織的にやるなど、他大学には見られない先駆的なやり方だと。

有馬 教員養成が実践的で独創的に行われているということですね。学部の先生もですが、学部の卒業生が学部教育に寄与していると言えるのでしょうか。そこが教育学部らしいところですね。

秋重 卒業生が附属の教員を務めるだけでなく、学部の中に入って、「支援センター」で活躍し、現場に帰る。また、現場から附属の副校長に帰るなど、学部と卒業生のつながりが重層的になってきています。

◆ 学生さんの様子

有馬 同窓会会員には見えにくいので、今の学部の学生さんの生活の様子をお話ください。

秋重 よそから来た方が「学生がよく挨拶しますね。」と驚かれます。学生は現場に出る機会が多いのですが、その都

度事前指導もしますし、現場では社会的にも鍛えられるので、昔とはずいぶん変わってきています。

有馬 私も在職中に学生指導の担当をしました。就職試験が近づいてから練習するのは、地に着いた挨拶ができないというので、教育実習の前などに何度か指導していました。今は、指導が日常的に浸透してきているということですね。

秋重 今は一年生の時から附属へ行きますが、行く前に、どんな服装で、どんな態度が必要で、・・・と指導します。二・三年生でも繰り返し返す。重層的にやっているので、でき上がってくるんです。

有馬 一般に、今の若い人ははじめだが器が小さいとか、勢いや元気が今一つだと言われることもあるようですが、うまく指導の手を加えていらいつしやる。

秋重 全ての学生とは言えませんが、「一〇〇〇時間体験」などでは、非常に生き生きしていますよ。教員志向性の調査もしているのですが、八十パーセントが卒業後教員になりたいと。四年間の指導と共に高まっています。

◆ 学部の先生方を激励したい

有馬 同窓会が後輩の教員養成に寄与できることなど、正直言ってそんなにないのですが、学部の先生方の目が回るような忙しさやご健闘の様子を見て、同窓会として、激励、応援の意味を込めて、このたび、「教育振興助成事業」を計画しました。毎年一名程度、教育振興奨励賞、を差し

上げ、学部に応援歌を送ろうというものです。

秋重 有難うございます。大学では学長枠の研究と教育の奨励もありますが、教育学部の先生は、学校現場の指導とか教育委員会の手伝いなど、独自の活動もあります。そのような視点からも奨励していただければ有難いです。

有馬 学部の教育・研究をはじめ、学校現場や地域社会などとの連携に関わる活動を顕彰するのもよいでしょう。毎年、前期中に学部長さんからご推薦いただいで、同窓会で確定して、秋に表彰させていただくということで、今年、早速第一回を実施させていただきます。

同窓会の支部活動の活性化

秋重 同窓会と学部とのつながりを強めていただいで感謝しています。同窓会には、本部の外に支部がどれくらいあるのですか。



有馬同窓会長

有馬 二十三支部あって、支部長、理事などの役員で構成されています。松江・安来・雲南などと地区別に、教育庁・県立大・高専などの職域別も、県外にも東京・横浜・岡山などの支部があります。今、各支部の活動の強化や本部との連携を進めています。

秋重 卒業生も、近年は県内の採用が減って、かえって大都市圏での採用が広がっている傾向にあります。卒業生が各

支部でお世話いただけると有難いです。

有馬 支部を支えて下さっている方は、五十歳代以上の方が中心で、若い人はあまり入会、所属しないという現状にあります。他府県にも若い卒業生が中心になった支部ができたりするといいなあと思っていますね。東京や横浜でも、若い人に働きかけようと努力して下さっています。

秋重 卒業後の動向や成長の様子を把握、検証したいのですが、同窓会により情報収集の機会ができればと思います。

有馬 昔、学部の先生方が各地へ出かけ、そこへ卒業生が集まって、交流、情報収集、激励をしたことがありましたよ。私が在職中も、益田市などでやったことがあります。同窓会と学部が一緒になって、そのような企画をやってもよいかもしれませんね。今は忙しくて、そんな余裕はありませんかねえ。

地元の教員養成をがんばりたい

秋重 現実には「評価」などシビアな課題が優先されているんですよ。本当の教師が育っているか、採用率が上がっているか、そして、卒業後も教師力の向上がみられるかどうか。それを追跡調査して評価しないとイケない。実証的にやらないといけなくなっています。

有馬 特に採用率が低くて、教員の若い層に島大卒が少ないことが問題。がんばって欲しいですね。

秋重 うちの大学は、四割が島根県出身。鳥取県も合わせて六割以上が地元教員希望で入学してくる。しかし、中々採用してもらえない。島根県での小・中学校教員の占める学

部出身者の割合は、何年も講師をして採用された人も含めて二〜三割程度です。まだまだ努力が足りないと思うんです。他府県も受け就職率をあげる手もあるんですが。やはり、地元の教員養成をめざすべきだと思っっているんです。

望ましい学部と同窓会の関係

有馬 同窓会も、面接指導のお手伝いをしている程度ですが、応援していますのでがんばってください。卒業生との関係では、この数年「ホームカミングデー」が実施されています。年に一回ぐらい母校に帰ってみるのもよいのじゃないかとも考えるのですが、中々広がりませんね。

秋重 カミングデーをやる以前は、退官する先生がある時に、イベントとして卒業生が多く集まっていました。今は、大学としても、学部としても、先生方同士の退官関係行事はしなくなつて、少し寂しくなつてきています。

有馬 私が退職する十年前頃までは、学部教官同志も、研究室の卒業生企画のもの、にぎやかにありましたけどね。カミングデーを始め、卒業生と母校のつながりを強化する策を工夫しなければなりませんね。

絆やつながりを大切に

秋重 大学の法人化は、余分なものは全てそぎ落として、教育や研究だけみたいになつたものですから、ぎくしゃくしてしまつたところもあるんですね。人間と人間との関係の潤滑油みたいなものは大切ですけど……。

三・一一以降「絆」が言われ出されていますよね。少し反省して、考えを変えていかなければいけないと思うんです。
有馬 「絆」と敢えて言わなくても、ある程度絆があつた時代もあつたわけですが、強いてそういう言葉をひっぱり出して、大声で主張しないといけない時代になつたということでしょう。当然、同窓会は絆を大切にしていきたいと思えます。

秋重 鳥根も鳥取も、地域の教育について鳥根大学を大変頼りにしてくださっています。私どももできるかぎりのことをして、地域社会にちゃんとした足場を築いていきたいと思えます。脈々と続いている地域との関係、同窓会との関係、特に人間的なつながりや絆を大切にしていきたいと思えます。

有馬 歳を取るほど、母校・教育学部への思いは強まってくるように思います。学部の発展を願つてやみません。同窓会としても学部との連携を強めたいと考えていますのでよろしくお願い致します。本日はお忙しい中、有難うございました。

※この対談は、平成二十四年十月二日（火）に行われたものを編集部がまとめたものです。

